

## なからぎ

224号

2019年1月

## 道、そして歩くことについて

学長 築山 崇

20年ほど前初めてイギリスを訪れた時、パブリックフットパス（Public Footpath）の存在を知りました。歩行者専用の散策路が国中に張り巡らされており、羊がのんびりと草をはむ牧場、灌木や石組で縁どられた麦畑などを縫って、緩やかな起伏をたどる道はとても魅力的でした<sup>1</sup>。土の感触、風の匂い、鳥の声、溪流のせせらぎなどが五感を通して心を満たし、景色のゆっくりとした変化が、思考の優しいリズムを生み出してくれました。

最近偶然購入した、道または歩くことをテーマにした本が2冊手元にあります。1冊目は、ロバート・ムーア著『トレイルズ 「道」と歩くことの哲学』<sup>2</sup>。これは、筆者が、北アメリカのアパラチアントレイル（ジョージア州からメイン州まで全長3,500kmに及ぶ長距離自然歩道）の調査と歩行をもとに、動物の生態とトレイルのかかわり、人類の文化・社会の歴史と道（トレイル）とのかかわりなどについて考察を深めた著作です。人生という「生きる道」を歩む私たちは、「道を求めるもの（パスファインダー）」であり、「わたしたちが道を修正するとき、道もまたわたしたちを修正する」といった言葉は、「キャリア」を考える視点としても示唆的です。

2冊目は、レベッカ・ソルニット著『ウォークス 歩くことの本質』<sup>3</sup>。こちらは、思考と文化と歩行の深い結びつきに関する考察となっています。「……車や船や飛行機によって移動するのではなく、それ自体が移ろっていく身体の運動によってしかある種の放浪への憧れは慰めることはできない」という一節は、“放浪好き”の私にとって、大いに共感するところです。原題のWanderlustは、「さまようことへの渴望」を意味しているそうです。イギリスにおける徒歩旅行やパリなど都市での街歩きの歴史的考察に基づく「歩くことの歴史には、具現化された思考の歴史という側面がある」という指摘にも説得力があります。

昨今、健康づくりのためのウォーキングが人気ですが、歩くことによって思考を深める、そんな視点を新年の抱負に加えてみてはいかがでしょうか。

- 
- 1 イギリスのフットパスや徒歩旅行の歴史的背景などについては、平松紘『ウォーキング大国イギリス フットパスを歩きながら自然を楽しむ』2002 明石書店、中島俊郎『イギリス的風景 教養の旅から感性の旅へ』2007 NTT出版などが参考になります。
  - 2 Robert Moor On Trails An Exploration 2018 岩崎晋也訳 株式会社 エイアンドエフ
  - 3 Rebecca Solnit Wanderlust A History of Walking by Rebecca Solnit 東辻賢治郎訳 2017 左右社

## 1 冊の本との出会い 「彼の生きかた」

森林科学科 高 濱 淳一郎

図書館報でこのようなことを書くと怒られそうですが、学生時代、専門書以外の書籍はあまり読んだことがありません。専門書も数式の書いてあるものが多い状況でした。詩集を読むことはありましたが、これは、大学院の受験勉強時に眠気を覚ますために読んでいたもので、どこからでも読み始めることができ、すぐにキリのよいところで読み終わることができるかと当時思っていたからです。ただ、学生時代に大学食堂でアルバイトしていたときは、ほんの少しだけ小説を読んでいました。その時のことを書こうと思います。

学食のアルバイトは16時半から20時までで、2回生の頃は週五回入っていました。その頃のバイト仲間は同じ大学の学生が多く、同学年が多いが学部は違っていました。その方が、かえって面白く付き合えたような気がしています。食堂が地下にあったので、「地下室のメロディ」と称して一人分が見開き1ページもある名簿を作ったことを覚えています。体力的には結構大変でしたが、仕事は仕事、プライベートはプライベートでしたので、ストレスのかからない職場だったのを覚えています。

バイトが終わると食事がありましたので、食中食後にいろいろとバイト仲間で話をしていました。私は当時、あまり寝ていなかったせいもあって、夕食を早々に食べ終わると疲れて畳のある部屋で寝そべっていたことが結構ありました。無駄に体力を使っていたようです。バイトでの話はあえてたわいのないものが選ばれていたような気がします。しかし、あるとき、二人のバイト仲間とくつろいでいたとき、どんな本を読んでいたかという話になりました。私は聞き役に徹していましたが、

そのとき友人の一人がごく控えめに良かったと言っていたのが「彼の生きかた」という本でした。そのとき、中身については何の話もなく、私は題名だけを覚えて、しばらくそのままにしていました。

どんなタイミングでその本を読んだのかは今となっては覚えていないのですが、あっという間に読み切ってしまいました。吃音で気が弱いために人と上手く接することができない主人公が野生のニホンザルの調査に一身を捧げる決意をするものの、大資本や無理解な人間が立ふさがり……という話でした。私にはその状況まで頑張ることが出来るだろうかとか、少し非現実的だと思いつつも、好きなことを追い求め続ける純朴な主人公にすこみを感じたのを覚えています。

4回生になると研究室に配属されました。私は大学院進学を希望していたので、バイトからは離れました。ただ、幾人かのバイト仲間とは付き合いが続き、互いの結婚式に出るような間柄になりました。「彼の生きかた」を薦めてくれた彼は「高濱が結婚するときは俺が司会したるわ」という宣言通り、私の結婚式の司会をしてくれました。

今から思い起こすと、大学時代にこの研究室に配属されてなかったら、今の私は無かったといってよいほど、研究室では鍛えに鍛えられました。4回生のときは情けなくて、無力感にさいなまれることもありました。また、このまま修士課程に進んでもやっていけるのだろうか心配にもなりました。大学院受験のために今までの不勉強を取り戻そうとシャカリキになって勉強したつもりでしたが、研究ではそのような付け焼刃的態度では通用しないことも思い知らされました。

そういうこともあって、修士課程に進学してからは、卒論の復讐戦として目の前にあることを何とか理解したいと思うようになりました。また、わからないことに正直なろうとして、基礎的な部分に対する疑問と向き合うことにしました。今の学生たちは私の目から見ると色々忙しいようで大変だなと思いますが、私の大学院時代は時間がたっぷりあったので、そういった取り組みが可能でした。図書館に行って自分の分からないところ、その一つだけをひたすら調べていました。調べるといっても、自分にとって分かりやすいかどうかとか、こういう方向からアプローチしていないかとか思って探していましたので、専門書を読み込むという感じではありませんでした。それでも、わからなかったことや腑に落ちなかったことが分かれると一気に目の前が開けるような気がしました。そのような生活を送ることで、少し時間がかかりましたが楽しく勉強できるようになりました。当時、M1のときには週3回は研究室の宿泊可能な部屋に泊まるような生活でしたが、非常に楽しかったことはよく覚えています。知らない間に「彼の生きかた」に影響されたかのような生活になっていました。

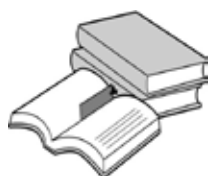
修士課程の2年生になり、修士論文のテーマを決めるのと同時に今後の自分の進路をどうするかという問題に遭遇しました。結果的に第一志望はかないませんでした。当時の私は4回生、修士課程で関わったまさにこの研究の行く末を見たい、そのために何かしたいという思いが強く、お金も関係なく、ただ関わってお手伝いできればと本気で思っていた節があります。現実的な将来設計など何もないような状況で、この部分については影響を受けたというより、単に世間知らずで能天気だったと言えます。博士課程に進むことは諸般の事情で無くなったので、当時直接指導していただいていた先生から留学を考えてはどうかとの話もいただきましたが、その時はなぜかそこまでは踏み出せませんでした。後で少しだけ後悔しましたが、今となっては塞

翁が馬だと思っています。色々悩みましたが研究室で行っていた研究でお世話になった論文の著者が在籍されているところに就職することになり、何とか息が続いた感じになりました。学生時代、研究室で過ごしたわずかな時間でしたが「彼の生きかた」が少し影響したのかもとも思っています。

一冊の本との出会いという、私にはまず、この一冊になります。と同時に、学生時代のアルバイトや研究室でのことも思い出されます。つらつらと思い出すままに書いてしまい、收拾がついていませんが（就職のところまでは、書くつもりはなかったのですが）、最後に、皆さんにお話しておきたい人のことを書きます。彼は、バイト仲間の一人で、文学部で行動心理学を勉強していたのですが、その過程で霊長類に興味を持ち、理学部に転部しました。彼とはいろいろ話をしていたので、「彼の生きかた」という本があるよと伝えました。彼はさっそく読んだらしく、「俺よりさきにこの本のことを知っていたのが悔しい」というようなことを言っていました。かなり後から、分かったのですが、彼は霊長類を専門とする研究室に進み、理学博士を取得されたとのことでした。彼こそが「彼の生きかた」にふさわしい人間なのだという事をお伝えして終わりたいと思います。乱筆、乱文失礼いたしました。



「彼の生きかた」 遠藤周作著 新潮文庫



# 府大生の読書傾向

～ 2017・2018 ～



新しい図書館はご利用いただいていますでしょうか。

2016年度の4月から11月、2017年度、2018年度の同期間の学内者貸出冊数を比較すると、2016年度は16,499冊、2017年度は4月に休館もあり15,612冊、今年度は17,839冊となりました。今年度は、貸出冊数も増えており、新図書館にも馴染んでいただけたのかと喜んでおります。

年の始めの恒例、ベストリーダー、2017年・2018年を見ていきましょう。

学習図書では、『地域公共人材をつくる：まちづくりを担う人たち』『公共政策学の基礎 新版』は、2年連続のランクインです。『御伽草子集』や『博物館概論\*博物館資料論』など授業関連図書も例年多く利用されています。

## 2017年

順位	タイトル/著者	請求記号
1	コンビニ人間/村田沙耶香[著]	913.6 M
2	夜は短し歩けよ乙女(角川文庫)/森見登美彦[著]	913.6 M
3	京料理の文化史/上田純一編	383.8162 U
6	何者/朝井リョウ著	913.6 A
6	地域創生の最前線：地方創生から地域創生へ(京都政策研究センターブックレット：No.4)/青山公三、小沢修司、杉岡秀紀、菱木智一編著	308 K 4
6	蜜蜂と遠雷/恩田陸著	913.6 O
7	京都・観光文化への招待/井口貢、池上惇編著	689.2162 I
8	博物館概論*博物館資料論(新博物館学教科書・博物館学：1)/大堀哲、水嶋英治編著	069 H 1
9	地域公共人材をつくる：まちづくりを担う人たち/今川晃、梅原豊編	318.6 I
12	新 TOEIC TEST900点特急パート5&6/加藤優著	830.79 K
12	ストーリー・セラー(幻冬舎文庫)/有川浩[著]	913.6 A
12	羊と鋼の森/宮下奈都著	913.6 M
13	基礎栄養学/応用栄養学(なぜ?どうして?:栄養士・管理栄養士のための:6)/医療情報科学研究所編	498.14 I 6
16	博物館資料論(博物館学シリーズ:2)/有元修一編集/浅井ミノル[ほか]著	069 H 2
16	「RC×S×木」構造デザイン入門(エクスナレッジムック)/飯嶋俊比古[ほか]執筆	524 I
16	火花/又吉直樹著	913.6 M
19	ゾウの時間ネズミの時間:サイズの生物学(中公新書)/本川達雄著	481.3 M
19	公共政策学の基礎 新版(有斐閣ブックス:106)/秋吉貴雄、伊藤修一郎、北山俊哉著	301 A
19	光の建築を読み解く/日本建築学会編	524.89 N
20	アトキンス物理化学 第8版 上/Peter Atkins, Julio de Paula著/千原秀昭、中村巨男訳	431 A 1
24	大学の有機化学(ステップアップ)/齋藤勝裕著	437 S

順位	タイトル/著者	請求記号
24	大学教育について(岩波文庫)/J.S.ミル著/竹内一誠訳	377 M
24	地方創生の正体：なぜ地域政策は失敗するのか(ちくま新書)/山下祐介、金井利之著	318 Y
24	グレート・ギャツビー 改版(新潮文庫)/フィッツジェラルド[著]/野崎孝訳	933.7 F
26	人体の構造と機能/臨床栄養学 第2版 1(なぜ?どうして?:栄養士・管理栄養士のための:1-2)/医療情報科学研究所編	498.14 I 1
26	TOEIC テスト公式問題集：新形式問題対応編/Educational Testing Service 著	830.79 E
41	源氏物語 1(新編日本古典文学全集:20-25)/[紫式部著]/阿部秋生[ほか]校注・訳	918 S 20
41	史記 2(新釈漢文大系:38-41, 85-92, 115-116, 120)/[司馬遷撰]/吉田賢抗著	222.03 S 2
41	客分と国民のあいだ：近代民衆の政治意識(ニューヒストリー近代日本:1)/牧原憲夫著	210.6 M
41	風の歌を聴け(講談社文庫)/村上春樹[著]	913.6 M
41	京都観光学 改訂版/山上徹著	689.2162 Y
41	有機スペクトル解析(わかる有機化学シリーズ:3)/齋藤勝裕著	433.9 S
41	1Q84(ichi-kew-hachi-yon): a novel book 1/村上春樹著	913.6 M 1
41	怖い絵[1]/中野京子著	723 N 1
41	阪急電車/有川浩著	913.6 A
41	クジラの彼/有川浩著	913.6 A
41	坂の上の雲 1:新装版(文春文庫)/司馬遼太郎著	913.6 S 1
41	可視・紫外分光法(分光測定入門シリーズ:5)/日本分光学会編	433.57 N 5
41	大学1・2年生のためのすぐわかる有機化学/石川正明著	437 I
41	精霊の守り人(新潮文庫)/上橋菜穂子著	913.6 U
41	岩波講座日本歴史 第22巻:歴史学の現在(テーマ巻 3)/大津透[ほか]編集	210.08 I 22

※順位欄の数字が白文字は、学生希望図書。

また、『歴史とは何か (岩波新書)』(1962年)や新入生ゼミ課題図書『ゾウの時間ネズミの時間:サイズの生物学 (中公新書)』(1992年)など、出版年にかかわらず多く読まれているのは大学図書館ならではですね。

一方、例年通り『新 TOEIC TEST900点特急パート5&6』や『中検 3 級問題集 2016年版』などの語学学習の参考図書も順調に借りられました。

教員著書からは、『京料理の文化史』『地域創生の最前線:地方創生から地域創生へ』『京都市北部地域における集落と里山景観 集落編』、教員選書からは、『怖い絵 [1]』『評価論理:評価学の基礎』がよく読まれました。先生方が書かれた図書、推薦された図書はやはり人気があります。

文学はどうでしょう。村田沙耶香著『コンビニ人間』は、ご存知のとおり2016年に芥川賞を受賞した小説です。2017年に直木賞と本屋大賞を受賞した『蜂蜜と遠雷』とともによく読まれました。村上春樹、有川浩、森見登美彦は、毎年お名前の挙がる作家です。

附属図書館では、学生希望を受付けています。順位が白抜きの数字の図書は学生希望によって購入した図書です。今年度は、11月までに約90冊の図書を受入れました。学習・研究等に必要な図書が図書館にない場合は、カウンター前に申し込み用紙がありますので、記入の上職員にお渡しください。

附属図書館では、みなさんの読書傾向も参考にしながら、学習や教養に役立ち、思索を深めて頂ける書棚となるよう図書の受入整理に努めてまいります。

2018年

順位	タイトル/著者	請求記号
1	コンビニ人間/村田沙耶香[著]	913.6 M
2	地域公共人材をつくる:まちづくりを担う人たち/今川晃, 梅原豊編	318.6 I
3	政策評価 (BASIC 公共政策学:9)/山谷清志著	301 B 9
4	蜜蜂と遠雷/恩田陸著	913.6 O
7	夜は短し歩けよ乙女(角川文庫)/森見登美彦[著]	913.6 M
7	御伽草子集 (新潮日本古典集成:第34回)/松本隆信校注	918 S 49
7	夜行/森見登美彦著	913.6 M
9	風の歌を聴け (講談社文庫)/村上春樹[著]	913.6 M
9	地域政策と市民参加:「市民参加」への多面的アプローチ/佐藤徹編集代表	318.04 S
14	史記 1 (新釈漢文大系:38-41, 85-92, 115-116, 120)/[司馬遷撰]/吉田賢抗著	222.03 S 1
14	太平記:玄攻本 4/前田育徳会尊経閣文庫編刊	913.435 T 4
14	歴史とは何か (岩波新書)/E. H. カー著/清水幾太郎訳	201 C
14	評価論理:評価学の基礎/佐々木亮著	301.6 S
14	オリエント急行殺人事件 (光文社古典新訳文庫)/アガサ・クリスティ著/安原和見訳	933.7 C
19	太平記:神田本下巻 (古典研究会叢書:第2期 国文学)	913.435 T 2
19	西の魔女が死んだ (新潮文庫)/梨木香歩著	913.6 N
19	光るクラゲがノーベル賞をとった理由 (わけ):蛍光タンパク質 GFP の発見物語/生化学若い研究者の会編著	431.54 S
19	公共政策学とは何か (BASIC 公共政策学:1)/足立幸男著	301 B 1
19	地方消滅の罫:「増田レポート」と人口減少社会の正体 (ちくま新書)/山下祐介著	334.31 Y
20	中検 3 級問題集 2016年版/日本中国語検定協会編	820.79 C

順位	タイトル/著者	請求記号
33	夜と霧 新版/ヴィクトール・E. フランクル[著]/池田香代子訳	946 F
33	御伽草子 (日本古典文学大系:38)/市古貞次校注	918 N 38
33	ノルウェイの森 上/村上春樹著	913.6 M 1
33	ヨーロッパ文化と日本文化 (岩波文庫)/ルイス・フロイス著/岡田章雄訳注	210.48 F
33	なぜ自信が持てないのか:自己価値感の心理学 (PHP 新書)/根本橋夫著	146.8 N
33	すべてがFになる:The perfect insider (講談社文庫)/森博嗣[著]	913.6 M
33	桐島、部活やめるってよ/朝井リョウ著	913.6 A
33	ペンギン・ハイウェイ/森見登美彦著	913.6 M
33	公共政策学の基礎 新版 (有斐閣ブックス:[106])/秋吉貴雄, 伊藤修一郎, 北山俊哉著	301 A
33	ストーリー・セラー (幻冬舎文庫)/有川浩[著]	913.6 A
33	海に見える理髪店/荻原浩著	913.6 O
33	水滸伝 1 (講談社学術文庫)/井波律子訳	923.5 S 1
33	未来の年表:人口減少日本でこれから起きること (講談社現代新書)/河合雅司著	334.31 K
40	グリム(初版)を読む[本編]/吉原高志, 吉原素子編著	943.6 Y
40	水滸伝 (図解雑学:絵と文章でわかりやすい!)/松村昂, 小松謙著	923.5 M
40	知的複眼思考法:誰でも持っている創造力のスイッチ (講談社+a文庫)/刈谷剛彦[著]	141.5 K
40	竹取物語/伊勢物語/大和物語/平中物語 (新編日本古典文学全集:12)/片桐洋一校注・訳/福井貞助校注・訳/高橋正治校注・訳/清水好子校注・訳	918 S 12
40	京都市北部地域における集落と里山景観 集落編/大場修編	291.62 O
40	京料理の文化史/上田純一編	383.8162 U
40	入門公共政策学:社会問題を解決する「新しい知」(中公新書)/秋吉貴雄著	301 A

## 図書館からのお知らせ

- ◆府大の学生・教職員の皆様へ  
春休み長期貸出を行います。ぜひご利用ください。  
対象期間 1月28日(月)～3月24日(日)  
返却期限 4月8日(月)  
貸出冊数 学部生・大学院生12冊  
上記以外の方6冊  
4回生・大学院生は、特別貸出(1ヶ月6冊)と合わせて最大18冊貸出できます。
- ◆卒業(修了)予定の皆様へ  
現在貸出中の図書は、2月28日(木)が最終返却期限です。  
卒業される前に、必ず返却をお願いします。  
卒業後も、引き続き図書館をご利用ください。

### ●府民利用カードについて

利用資格が確認できるものをご持参の上、カウンターでお申込ください。

申込受付時間 平日9時～20時、土日9時～16時

対象 高校生以上の方で京都府内に在住・在勤・在学の方

利用いただけるサービス 図書の貸出(3冊15日間)、研究個室・グループ研究室の利用

- ・他大学に所属される方は、府民利用カードの発行はできません。大学図書館間の相互利用制度を通じてご利用ください。
- ・学内利用図書等、貸出できない資料があります。
- ・大学定期試験前・期間中は、府民への貸出を停止します。
- ・資料の閲覧・複写、インターネットコーナー端末は、府民利用カードをお持ちでない方も利用いただけます。

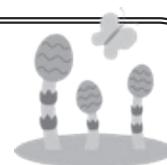
## カレンダー

9:00～  
21:00

9:00～  
17:00

休館  
第2水曜日  
祝日  
年末年始 蔵書整理

※平日17:00以降及び土日には行っていないサービスがあります。  
ご了承ください。  
詳しくは、図書館ホームページでご確認ください。



2019年1月

2019年2月

2019年3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

★～1/4(金) 年始休館

★1/15(火) 冬休み長期貸出返却日

★1/21(月)～2/9(土) 府民貸出停止

★1/28(月)～3/24(日) 春休み長期貸出開始  
(学生、教職員のみ)

(返却予定日: 在学生は4/8(月)、卒業(修了)予定者は2/28(木))

★2/10(日)～ 府民貸出再開

★3/11(月)～3/15(金) 休館(蔵書整理)

★3/25(月)～ 府大学生、教職員通常貸出

